

## 2018 年の温暖化政策の展望と課題

### <報告要旨>

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所  
地球環境ユニット 地球温暖化政策グループマネージャー  
研究主幹 田上 貴彦

#### COP23 の概要

1. 11 月 6～18 日、ドイツ・ボン市で、議長国フィジーの下、気候変動枠組条約第 23 回締約国会議 (COP23) 及びその補助機関会合、パリ協定特別作業部会等が開催された。今回の会合では、パリ協定の詳細ルールの策定に向けて大きな進捗が求められた。
2. パリ協定は、緩和 (削減)、適応、資金等の要素から構成されている。しかし、途上国が重視する適応、資金等については、パリ協定の実施のための詳細規則をどの機関でどのように検討するかが不明確なままになっていた。今回の会合では、途上国からの巻き返しとして、2020 年までの期間における先進国による資金等の提供と削減努力の評価や、2020 年以降の資金などに関して、議論の場を設けるよう提案がなされ、論点となった。
3. パリ協定の詳細ルールを検討しているパリ協定特別作業部会では、今回の会合での進捗について、各議題の責任者が作成した非公式ノートを結論文書に添付として一旦まとめた。非公式ノートは全体で 265 ページに上った。同時に、パリ協定特別作業部会議長が 2018 年 4 月までに、今回の会合の結果の概要と解決の方向性のオプションをまとめた文書を出すこととなった。COP では、2018 年 12 月の COP24 (ポーランド・カトヴィツェ市) までにパリ協定実施のための作業計画を完了するため、2018 年 4～5 月の補助機関会合及びパリ協定特別作業部会の結果を踏まえ、COP 議長が、COP24 の会期までの間で交渉会合を追加するかどうかを検討することとなった。
4. また、COP では、長期削減目標に向けた締約国全体としての努力の進捗状況に関して 2018 年に評価を行う「促進的対話」を、太平洋地域で対話の際に伝統的に用いられている全員参加と透明性を重視する精神にちなんで、「タラノア対話」と名付けた。なお、当該対話は 2018 年 1 月から開始されることとなった。

#### 2018 年の温暖化政策の展望と課題

5. 2018 年の国際交渉については、上述のとおり、途上国が資金・適応等と緩

- 和（削減）とのバランス、2020年以前の対策と2020年以降の対策とのバランスを求めるなど、課題が山積していることから、パリ協定の実施のための作業を2018年のCOP24までに終えることは難しいと考えられる。
6. 米国では、オバマ政権によるクリーンパワープラン（既存発電所からの排出を削減する規則）を廃止する手続きが開始されたが、複数の州が訴訟を準備中であること、州レベルでの再エネ・省エネ政策が引き続き行われていること等から、2018年での実際の排出動向に大きな影響はないと考えられる。また、国連に対してパリ協定からの脱退通知を提出したが、国連気候変動交渉及び会合には、国益を守りつつ、政権にとっての将来の政策オプションを失うことがないように参加し続けるとして、COP23にも参加した。当面は米国離脱の国際気候変動交渉への影響は限定的にとどまるものと考えられる。
  7. 中国の全国排出量取引制度については、2017年に開始予定だが、統計データの信憑性の問題などから、本報告要旨作成時点でいまだ正式の発表はない。2020年までにどのように制度が出来上がっていくのか注目される。また、自動車生産企業に対して一定比率の電気自動車などの「新エネルギー自動車」（電気自動車（EV）、燃料電池自動車、プラグインハイブリッド車等）の生産を義務付け、それをクレジット管理を通じて実行させる制度が公表された。中国によるEV等グリーン低炭素産業の発展戦略の今後が注目される。
  8. EUの2030年目標は、2020年目標と異なり、達成が容易ではないと考えられている。その背景の下、2018年は、排出量取引制度改正指令、排出量取引制度の対象にならない部門に関する努力分担規則、エネルギー効率改正指令等についての欧州議会や加盟国との調整が本格化していくと考えられる。
  9. 米国・EUで乗用車燃費基準が再検討される一方、中国・インドがEV推進のための制度、支援策に着手した点は注目される。フランス・英国も将来的に内燃機関搭載車の販売禁止の方向を示しており、EV等の先進自動車の普及促進を巡る各国の動きを注視していく必要がある。
  10. 日本では、2030年目標の実現に向けた課題、非化石電源比率44%以上の目標に向けた非化石価値取引市場の設計、省エネ法による火力発電効率指標の達成状況、2050年に向けた長期戦略、カーボンプライシング（炭素税等）のあり方等について、審議会等において議論が行われており、注視していく必要がある。

以上